

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1495200220
法人名	(株)アイ・ディ・エス
事業所名	バナナ園武蔵小杉
訪問調査日	2017年9月6日
評価確定日	2017年10月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成29年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495200220	事業の開始年月日	平成25年6月1日	
		指定年月日	平成25年6月1日	
法人名	(株)アイ・ディ・エス			
事業所名	バナナ園武蔵小杉			
所在地	( 211-0022 ) 川崎市中原区荻宿8-54			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	18名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成29年8月26日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>*地域密着 花見、夏祭り、秋祭り、芋煮会、町会行事の参加、小学校・保育園との交流、ボランティアの方との交流 自分の居場所のある安心できる生活 洗濯、生活の中で役割を持ち、生き生きとした生活を送る。 スタッフとご家族が共に協力してご利用者様を支えるという姿勢。</p>	<p>*役割、 料理、掃除、洗 *家族の協力</p>
--	------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成29年9月6日	評価機関 評価決定日	平成29年10月31日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は株式会社アイ・ディ・エスの経営です。社会福祉法人ばなな会と共に川崎市を中心にグループホームを展開しており、グループ全体で10ヶ所のグループホームを運営しています。同法人は古民家を改修した造りから近代的な建物まで、様々な利用者のニーズに対応出来る事業所があります。「バナナ園武蔵小杉」はJR南武線「平間駅」から徒歩15分程の住宅街に位置し、小学校や保育園も近く、地域交流が行いやすい場所にあります。

●管理者は今年度から着任し、着任後まだ間もないですが、同法人の他事業所で管理者の経験、開設時の職員としても携わっていた実績もあります。管理者は地域に根ざした事業所作りを目標に掲げています。地域密着型サービスとしてのグループホームの意義や役割をより多くの方々に知ってもらうべく「流しそうめん、芋掘り」等の行事を利用者や家族だけでなく、地域の方々にも開放したり、利用者家族の畑で収穫された野菜を事業所の玄関前で利用者と一緒に直売することで、地域の方との足がかりが持てるようにしています。

●ケアについては、法人の理念は「明るく・楽しく・自由に」です。理念を実践すべく、方針に「自由の10原則」を掲げ、職員主体ではなく利用者を主体として、出来ない事をサポートするケアを心がけ、朝礼時に「明るく・楽しく・自由に」の例を職員間で話し合いながら考えケアに反映させています。また、代表の想い「認知症だって夢は叶えられる」の想いの下、利用者一人ひとりの夢を叶えるための「夢プラン」の達成にも力を入れて取り組んでいます。「夢プラン」とは日々の生活の中で利用者から今の思いや希望等を傾聴し、変化があった場合は都度更新をかけ、利用者の誕生日に想いを実現させようと言う取り組みです。

●7月にはバナナ園フレンドキッズ(子供職業体験)を開催し(介護士・看護師・薬剤師)の体験や福祉用具に触れ、保護者向けに認知症サポーター養成講座を開催するなど、地域との関わり・交流が盛んに行われています。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	バナナ園武蔵小杉
ユニット名	1 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気、地域と繋がっているという安心感の中で、明るく、楽しく、自由に暮らす。地域の方にも積極的にあいさつをし、利用者様が中心の生活であり、スタッフは出来ないことをサポートするという役割を徹底している。	法人の理念「明るく・楽しく・自由に」を事務所に掲示し、朝礼時に職員間例を交えながら話し合い考えケアに反映させています。入職時に配布される職員のマナーブックにも法人の理念や職員としての心構えが記載されています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の交流会に積極的に参加しています。地域盆踊りの参加、お神輿の見学も行いました。運営推進会議の参加も積極的に参加してくれています。月2回、地域の方が歌のボランティアに来てくれている。地域の食料品店を活用し地域の資源となる生活を創造する。	町内会に加入しており、餅つき、盆踊り等の行事には積極的に参加しています。また、事業所主催の「流しそうめん、芋掘り」等の行事の際には地域の方々にも開放し、多くの地域の方に参加いただきました。年2回近くの保育園との交流行事や中学生の体験学習の受け入れ等、地域交流が盛んに行われています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議がきっかけとなり、地域包括センターの方と連携して近所の小学校で行われた「三町内会連合防災フェア」に車イス操作の講師を行い地域貢献している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	企画を交えた運営推進会議を行うことにより広く意見を求めて実際の活動に生かす。「流しそうめん」「じゃがいも掘り」などもこの会議が発端で始まりました。他の施設も検討して現在バナナ園武蔵小杉に入居されているご家族様の心情も理解できるよう皆様のご意見を真摯に受け止めています。	運営推進会議は町内会長、地域包括支援センター職員、民生委員、家族の参加で2ヶ月に1回開催しています。事業所の現状・活動報告の他、災害時における事業所としての役割や協力体制についての話し合いも行っています。「流しそうめん、芋掘り」は家族からの意見で今年度初めて地域の方にも開放して開催するなど、アドバイスを運営に反映させています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員さんがイベントごとにお越しになり様子を見に来てくださいます。また防災フェアなどこちらから出向していくことで相互協力関係を築きます。	地域包括支援センター職員は行事の度に毎回参加していただいております。事業所の現状をよく理解していただいております。また、近隣の小学校で開催される三町内会連合会連合防災フェアに地域包括支援センターと連携して開催しています。市の職員とは、グループホーム連絡会の研修に参加した際に、情報交換しています。来年度は市の「かわさき健幸福寿プロジェクト」にも参加する予定です。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、入口ドアは施錠しています。日常無意識におこなっていることが、実は身体拘束にあたるという認識はまだまだ足りていない。職員全員に拘束、接遇、認知症の理解の勉強会を行い理解を深める。	身体拘束については常勤・非常勤職員問わず年2回ずつ法人の研修に組み込まれており、必ず職員は参加しています。それに合わせ事業所内でも勉強会を実施し、全職員に身体・精神的、接遇の拘束・虐待に対する意識付けを行っています。リスクマネジメントの観点から家族にも了承を得て玄関とユニット間の扉は施錠しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回勉強会を開き、防止に努めている。またスタッフがストレスをためないようによく話を聞くようにしている。認知症の人の気持ちを理解することで虐待の防止を知識面から図る。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は講習などに参加しているが、職員に対しての勉強会はまだおこなっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が立ち会い必ずおこなっています。ご家族様の話をよく聞きご納得いただけるような対応、方法がないか丁寧に行うことを心がけている。またご入居者様専任担当を管理者とし入居希望の方の対応にスピード感を持って行えるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎回お送りする郵便物の中にご意見を頂きたいことや、開催する運営推進会議で行っている。ご家族様来園時は管理者が出来るだけ対応し意見や質問に答えられるようにしている。	前管理者が家族の来訪時に職員紹介をしていたことで、職員と家族間の関係は良好な関係が構築できています。運営推進会議には平均して6家族の参加があります。家族の問い合わせに対しては管理者もしくはユニットリーダーが対応する体制を採っています。家族からの意見・要望は申し送りノートに記載し、情報共有しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議、申し送りの時に職員の意見提案は聞いています。定期的の面談を設けたり 弍に医の相談には積極的に応じています。管理者は職員と業務をおこなうこともありますので、日常的に話しやすい環境にある。	職員からの意見は申し送りやケア会議の中で発言を促し、意見を収集しています。管理者は着任して間もないこともあり、日頃から職員とコミュニケーションを積極的に図っています。年1回常勤・非常勤職員問わず面談を行い、自身で設定しているケア目標の振り返りと併せて個別の相談等の話しも聞いています。管理者は職員の息抜きになるよう自宅からコーヒーマーカーを持参す等、職場の環境作りにも力を入れています	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備については、休憩時間を改善できるよう張り紙を増やしたり、シフト票に休憩の時間を書き入れるなど工夫をしています。給与について十分に整備できていません。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得等を進めています。内部の研修には全員参加し、外部研修についても希望者は参加できるようにしている。外部研修の内容を掲示したり、書籍を購入したり回覧することで仕事や認知症の理解に向けた取組みを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月1回、交流しています。た事業所の職員と触れ合い話し合いをする機会を設けています。勉強会やイベント実施の時は施設の垣根を越えて交流しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりとおこない、ご本人の表情やしぐさ、発言などに注意し、安心して過ごせるように努めている。また入居したてのときは職員が入居者様の様子を共有し、これまでとの環境の変化について観察し適切に配慮できるよう情報共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聞き、共に支える協力者であることを伝え、信頼関係を築く事に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	硬縮があり歩行の継続が心配な方には、医療と連携し訪問マッサージを導入した。また継続的にインスリン注射や傷部の洗浄が必要な方は積極的に注射の声かけや洗浄を学び、関与して行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、洗いもの、掃除機かけ、洗濯物干し、などは積極的にご入居様にやってみようことこそ自立支援に基づいたケアである、と認識しています。そのために役割が出来つつあり、「味付け部長」や「食器洗い担当」と自負するご入居様がおられます。表情が明るくなったように思います。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	おおむね信頼関係はできている。なかなか面会に來れないご家族様との交流はipadなどを使いおこなっている。イベントの際は積極的な参加を得られ、職員と同じように活動して下さるご家族様もおられます。どのご家族様もかけがえのない大切なバナナ園武蔵小杉の一員です。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週、教会に行っている方がいらっしゃいます。手紙や電話の取り次ぎの支援や、ご友人、ご家族来園時はゆっくり楽しい時間を過ごしてもらえるように支援している。また今までの写真をお部屋に掲示したり、ご家族様はもちろん友人知人の来訪も大歓迎しています。	居室に固定電話を引いたり、携帯電話を持ち込んでいる方もおり、ご自身で連絡を取り合っている方や事業所にかかってくる電話を取り次ぎ、馴染みの方との会話を楽しめるように支援しています。教会に通っていた方は牧師さんや友人と教会へ行っている方もいます。誕生日やお正月には家族と過ごされる方もいます	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	足の悪い方の下膳を手伝って下さる利用者さまがいらっしゃったり、助け合いながら生活が出来ている。不安を訴えるご入居者様にたのご入居者様が寄り添って「大丈夫」と手を握っていることもよくある状況です。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に当園での思い出を集めた写真集を新生活の場に許可を頂き持っていったり、ご逝去された方のお写真をタイムカードわきに掲示して敬意を表しています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりが大切、思いが伝えられなくても、察する事が出来るような関係性を築けるように努めている。記録を通して、情報共有、職員の対応の振り返り、ご本人にとって生活の喜びはどこにあるのか、把握でき様に努力している。	入居時のアセスメントを基に過去の生活歴や本人の趣味・嗜好の把握に努めています。日々の関わりの中で表情や仕草、本人が発した言葉等について個人管理記録を通して情報共有している他、家族からも情報を収集し思いの把握に努めています。利用者一人ひとりの夢を叶えるための「夢プラン」の達成にも力を入れて取り組んでいます。「夢プラン」とは日々の生活の中で利用者から今の思いや希望等を傾聴し、利用者の誕生日に想いを実現させようと言う取り組みです。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅までアセスメントを取りに行ったり、関係サービス機関に情報提供をお願いしている。ご家族様の来園時に「思い出はなし」を聞き、ご入居者様の若い時の思い出等を共有し話題づくりをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変わりゆく体調や趣味嗜好、人間関係の変化などを考慮し個別ケアの原則に基づきその肩にとって一番良い過ごし方を探して日々の関わりの中かで把握している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ケア会議をおこなっている。モニタリングで振り返りを行い、再アセスメント。ご本人、家族の意向を反映させた介護計画書を作成するようにしている。	毎月のケア会議でモニタリングを行っています。介護計画の見直しについては6ヶ月毎を基本とし、アセスメントは事前に全職員に現状の介護計画書を配布し、各職員から意見を集め、計画作成担当者を中心にカンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事だけではなく、その時の様子を書くことを意識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	パターンに捉われないようにとは思ってはいるが実際は十分な対応は出来ていない。外出の担当や食事の担当など強みを生かした勤務体制により、ご入居者様が満足できるサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑作業、保育園の園児の来訪、商店街での買い物などご利用者様のニーズに合わせた地域資源の活用ができています。特に町内会の協力が篤くお祭りやイベントなどの地域資源を外注支援や回想法などに取り込んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	初診時にご家族様同席で、受診して頂く。その時に直接医師から今後の方針などを説明する。	初診時は家族同席の下、事業所の協力医療機関の往診を受けていただき、そのうえで医療機関を決めていただいています。1名を除き全員の方が事業所の協力医療機関を主治医としています。従来のかかりつけ医での受診に関しては家族対応でお願いしています。内科の往診は月2回、歯科は口腔ケアと治療合わせて週1回の往診があります。訪問看護師は週1回利用者の健康管理に来ています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個人記録の見直し、申し送りでの情報を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合は、必ず病棟看護師に日常の状況をできるだけ早く伝えるようにしている。退院の時にも状況把握の為に病院まで行き直接病棟看護師の方から話を聞くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用前には必ず説明している。実際その状況になるとご家族の意志は変化する時もあるということをおきき念頭に置き今後も対応していきたい。	入居時に重度化した場合の対応に関わる指針を説明し同意を頂いていますが、家族の意志が変化することも踏まえ、重度化した際は改めて家族の意思を確認し同意書を頂いています。本部でも看取りケアに対する研修を行う等、法人としても看取りケアについて力を入れて取り組んでいます。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員は研修に参加できていない為、今後は全職員に行えるように研修を予定するようにしたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の避難訓練の実施。地域の協力にまではまだなっていないが、地域の防災訓練に参加し積極的に施設のアピールは行っている。避難時につける施設の名札を準備し、近隣の方の協力が得やすいようにしている。	避難訓練は年2回、夜間想定で避難訓練を実施しています。消防署の立会いは中々スケジュールが合わないため、防災設備業者立会いで水消火器の取り扱い訓練も行っています。避難時につける名札も準備し、地域の方や消防の方が一目でわかるようにしています。備蓄は水、食料、衛生用品も含めて3日分は準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理、接遇マナーについて独自の研修を全員同一内容で行っています。ご入居者様にたいする接遇こそ「介護士のプロ」の必須要件と伝え「慣れ親しみ」よりも「敬い思いやりあふれる」ケアを目指しています。	接遇や倫理は毎年研修カリキュラムで組み込まれています。また、「介護士のプロ」として必要不可欠なものであり、「敬い思いやりあふれる」ケアを実践する為に、独自で作成した接遇・倫理要綱を全員で申し送り時に共有しています。マナーチェック表にて日頃の対応について自己評価も行っています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や着替え、食事量や入浴、したいことや手伝って頂く内容など意識的に自己決定の機会を増やすように工夫している。またご家族様も交えて実際の生活における決定事項を相談して随時、その時に一番良い方法を検討している。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさは自由な環境の中にあります。その自由な環境づくりをしてこそご本人の希望を実現できると感じます。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容はほぼ2カ月に1回程度、地域交流の為、近隣の理美容をお願いしている。また60年来の美容師さんにカットして頂いているご入居者様もいる。ご家族には季節ごとの衣類の整理などもお願いしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の時は、利用者様の希望を聞き、特別メニュー（ちらし寿司 うな重 手打ちそば）にしたりしている。食事に関わる事はなるべく利用者様と一緒に行うようにしている。食事は利用者様と一緒にすることを基本にしている。	食品業者からレシピ付きで食材を取り寄せていますが、必ずフルーツは提供するようにしています。行事の際には注文を止めて利用者の希望や旬の食材を取り入れた食事を提供し、出来る方には下ごしらえや片付けをやらせてもらうことで、利用者の出来ることを奪わないように心がけています。食事を一緒に作ることは難しいですが、おやつは利用者と一緒に作っています。誕生日に家族と一緒に食事に行っている方もいます。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	見た目で食べない方も多いため、盛り付けや切り方を工夫している。水分も好みを把握し色々な種類をそろえている。時に夏場はゼリーや果物、寒天などを工夫し食味の良い物を少しでも気分よく摂取して頂けるよう工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回訪問歯科が入っているため、口腔ケアの方法などもアドバイスして頂き行っている。また口腔ケアは大切なものであるという認識を職員が持ち、その大切さをご入居者様に伝えていっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけなどをおこなっている。また出来るだけリハビリパンツなどの活用をお勧めし排せつ介助は極力トイレで、の共通認識を持ち介助している。	個々の排泄パターンを把握し、定時の声かけやタイミングを見計らった声かけでトイレ誘導を行っています。日中はトイレ誘導を基本とし、極力トイレでの排泄を心がけ、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいます。便秘対策として、食物繊維や水分を摂ってもらうようこころがけている他、運動等も取り入れていますが、それでも改善されない場合は、医師の指示の基下剤を使用しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、水分、運動を心がけているが、それでも便秘の場合は、医師の指示で下剤の使用もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	できるだけご本人の希望にそうようにしている。入浴のお声掛けも「～さん お風呂です」ではなく「お風呂が沸きますがせっかくだから入りませんか？」と問いかけにしてご自身の意思を尊重するようにしている。	週2回入浴を基本としていますが、無理強いせず本人の意思を尊重した入浴支援を行っています。入浴時の声かけは本人の意思を促すような声かけ、「バナナの湯」と名称を付けたり、きっかけ作りを工夫しながら入浴を促しています。1階には機械浴も完備されているので、重度化した方でも湯船に浸かっていただけるようになっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に昼寝をしたり、夜間なかなか眠れない方には日中の活動量を増やしたりしている。また医師からも「昼間のベッドは部屋を暗くしないで対応する」ような指示を頂き遵守している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の薬を一覧表にしたり、追加や変更になった新しい薬については目的と副作用がわかるように掲示している。また薬変更時には診療記録に反映できるよう心掛け、職員全体で把握している。服薬の際は2名の職員で「名前、服薬内容と日付け」を復唱して実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般、歌、散歩はお好きな方が多く、日々の楽しみになっている。外出支援は積極的に実施しており、出かけ際の町の方との会話も楽しみの一つです。最近は調理をお願いし味付け等お任せすることで役割を実感して頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方の協力で夕方、盆踊りに出掛けたりしている。事業所の庭でお天気のいい日はベンチに座ってお茶を飲んだりして気分転換をしています。自分たちで作ったおやつを庭に用意したベンチで皆さんで頂くことで穏やかな雰囲気づくりに貢献している。	外出支援には力を入れており、3日に1回は散歩も含めて外出する時間を設けています。散歩や買い物好きな方も多く、近所の商店街やスーパーへ一緒に買い物に行った際に地域の方との会話も楽しみの一つになっています。近くにある長谷香料の方からも庭園に遊びに来て下さいとの話もいただいております。今後の外出先として取り入れる予定です。天気や気候の良い日には庭のベンチでお茶会も行っています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所の商店街で、買い物支援を行っている。「買い物にいきたいわ」という時もできる限り同行して「まいばすけっと」でのお買い物では顔なじみになり「バナナ園さん」と呼んでくださるようになってきました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でご家族とお話したり、自由にしている。居室に個人電話をお持ちの方が4名おられ、自由にご家族との会話を楽しんでいる。電話に気がつくと職員が「～さん 電話が鳴っていますよ」と声をかけて楽しい雰囲気が生まれています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾を変えたり、臭いには特に注意し、こまめな換気や消臭剤を使用し施設独特の臭いがないように気をつけている。バナナ園武蔵小杉で同じ香りを購入して各フロアに置くことで統一した雰囲気を作り出し、心地よい空間にできるように注意しています。	法人の方針として、スタイリッシュなおしゃれ感のある装飾を目指し壁には大きな絵画が飾られ、1階と2階でソファの色も分けられています。共用空間は白を基調として扉はダークブラウンの2トーンになっており落ち着いた雰囲気になっています。また、飾ってある写真にも装飾を施し、おしゃれで可愛らしく飾っています。季節毎に飾りつけを替えることで、室内にいても季節感が感じられるよう配慮しています。室内は消臭剤の設置や換気を行う等、臭いにも留意しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを多く置き、ゆったりとくつろげるようにしている。認知症の状態や体調、季節や会話のしやすい雰囲気などを考慮してお席をできるだけ心地よい生活が出来る様に職員全体で検討しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具など持ち込んで頂き、できるだけ自宅に近い環境にしている。ご家族、お子様やお孫さまの写真、これまでお部屋に飾っていたもの、趣味の道具や好みのぬいぐるみなどを自由に持ち込んで頂き快適な生活空間作りをお勧めしています。	居室には白いクローゼットとエアコンが設備としてあり、ベッド、整理ダンス、テレビ、鏡台、写真、ぬいぐるみ等、馴染みの物を持ち込んでいただき、出来るだけ自宅で暮らしていた時と近い環境になるような空間作りがされています。片付けや掃除が出来る方は、職員と共にやっています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ、家庭的な環境を心がけ、場所や位置をなるべく覚えてもらうようにし、過剰な標識をつけないようにしている。なによりも「ご入居者様のスペース」であることを意識して環境づくりを進めている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

バナナ園武蔵小杉

作成日

2017年9月6日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	接遇の徹底	会社の方針や想いを共有し積極的支援を実施する。	接遇向上を重要な課題として面接や講習会の実施を行う	1年
2	18	利用者様中心の生活	利用者様が生き生きと暮らすグループホーム	意欲を引き出すような関わり。ニーズに合わせた支援。	1年
3	34	緊急時、事故発生時の対応	実践力を身につける	研修の開催	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	バナナ園武蔵小杉
ユニット名	2 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気、地域と繋がっているという安心感の中で、明るく、楽しく、自由に暮らす。地域の方にも積極的にあいさつをし、利用者様が中心の生活であり、スタッフは出来ないことをサポートするという役割を徹底している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の交流会に積極的に参加しています。地域盆踊りの参加、お神輿の見学も行いました。運営推進会議の参加も積極的に参加してくれている。月2回、地域の方が歌のボランティアに来てくれている。地域の食料品店を活用し地域の資源となる生活を創造する。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議がきっかけとなり、地域包括センターの方と連携して近所の小学校で行われた「三町内会連合防災フェア」に車イス操作の講師を行い地域貢献している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	企画を交えた運営推進会議を行うことにより広く意見を求めて実際の活動に生かす。「流しそうめん」「じゃがいも掘り」などもこの会議が発端で始まりました。他の施設も検討して現在バナナ園武蔵小杉に入居されているご家族様の心情も理解できるよう皆様のご意見を真摯に受け止めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員さんがイベントごとにお越しになり様子を見に来てくださいます。また防災フェアなどこちらから出向いていくことで相互協力関係を築きます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、入口ドアは施錠しています。日常無意識におこなっていることが、実は身体拘束にあたるという認識はまだまだ足りていない。職員全員に拘束、接遇、認知症の理解の勉強会を行い理解を深める。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回勉強会を開き、防止に努めている。またスタッフがストレスをためないようによく話を聞くようにしている。認知症の人の気持ちを理解することで虐待の防止を知識面から図る。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は講習などに参加しているが、職員に対しての勉強会はまだおこなっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が立ち会い必ずおこなっています。ご家族様の話をよく聞きご納得いただけるような対応、方法がないか丁寧に行うことを心がけている。またご入居者様専任担当を管理者とし入居希望の方の対応にスピード感を持って行えるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎回お送りする郵便物の中にご意見を頂きたいことや、開催する運営推進会議で行っている。ご家族様来園時は管理者が出来るだけ対応し意見や質問に答えられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議、申し送りの時に職員の意見提案は聞いています。定期的の面談を設けたり 弍に医の相談には積極的に応じています。管理者は職員と業務をおこなうこともありますので、日常的に話しやすい環境にある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備については、休憩時間を改善できるよう張り紙を増やしたり、シフト票に休憩の時間を書き入れるなど工夫をしています。給与について十分に整備できていません。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得等を進めています。内部の研修には全員参加し、外部研修についても希望者は参加できるようにしている。外部研修の内容を掲示したり、書籍を購入したり回覧することで仕事や認知症の理解に向けた取組みを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月1回、交流しています。た事業所の職員と触れ合い話し合いをする機会を設けています。勉強会やイベント実施の時は施設の垣根を越えて交流しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりとおこない、ご本人の表情やしぐさ、発言などに注意し、安心して過ごせるように努めている。また入居したてのときは職員が入居者様の様子を共有し、これまでとの環境の変化について観察し適切に配慮できるよう情報共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聞き、共に支える協力者であることを伝え、信頼関係を築く事に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	硬縮があり歩行の継続が心配な方には、医療と連携し訪問マッサージを導入した。また継続的にインスリン注射や傷部の洗浄が必要な方は積極的に注射の声かけや洗浄を学び、関与して行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、洗いもの、掃除機かけ、洗濯物干し、などは積極的にご入居様にやってみて頂くことこそ自立支援に基づいたケアである、と認識しています。そのために役割が出来つつあり、「味付け部長」や「食器洗い担当」と自負するご入居様がおられます。表情が明るくなったように思います。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	おおむね信頼関係はできている。なかなか面会に出来ないご家族様との交流はipadなどを使いおこなっている。イベントの際は積極的な参加を得られ、職員と同じように活動して下さるご家族様もおられます。どのご家族様もかけがえのない大切なバナナ園武蔵小杉の一員です。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週、教会に行っている方がいらっしゃいます。手紙や電話の取り次ぎの支援や、ご友人、ご家族来園時はゆっくり楽しい時間を過ごしてもらえるように支援している。また今までの写真をお部屋に掲示したり、ご家族様はもちろん友人知人の来訪も大歓迎しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	足の悪い方の下膳を手伝って下さる利用者さまがいっぱいいたり、助け合いながら生活が出来ている。不安を訴えるご入居者様にたのご入居者様が寄り添って「大丈夫」と手を握っていることもよくある状況です。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に当園での思い出を集めた写真集を新生活の場に許可を頂き持っていったり、ご逝去された方のお写真をタイムカードわきに掲示して敬意を表しています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりが大切、思いが伝えられなくても、察する事が出来るような関係性を築けるように努めている。記録を通して、情報共有、職員の対応の振り返り、ご本人にとって生活の喜びはどこにあるのか、把握でき様に努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅までアセスメントを取りに行ったり、関係サービス機関に情報提供をお願いしている。ご家族様の来園時に「思い出はなし」を聞き、ご入居者様の若い時の思い出等を共有し話題づくりをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変わりゆく体調や趣味嗜好、人間関係の変化などを考慮し個別ケアの原則に基づきその肩にとって一番良い過ごし方を探して日々の関わりの中かで把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ケア会議をおこなっている。モニタリングで振り返りを行い、再アセスメント。ご本人、家族の意向を反映させた介護計画書を作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事だけではなく、その時の様子を書くことを意識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	パターンに捉われないようにとは思っているが実際は十分な対応は出来ていない。外出の担当や食事の担当など強みを生かした勤務体制により、ご入居者様が満足できるサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑作業、保育園の園児の来訪、商店街での買い物などご利用者のニーズに合わせた地域資源の活用ができています。特に町内会の協力が篤くお祭りやイベントなどの地域資源を外注支援や回想法などに取り込んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	初診時にご家族様同席で、受診して頂く。その時に直接医師から今後の方針などを説明する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個人記録の見直し、申し送りでの情報を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合は、必ず病棟看護師に日常の状況をできるだけ早く伝えるようにしている。退院の時にも状況把握の為に病院まで行き直接病棟看護師の方から話を聞くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用前には必ず説明している。実際その状況になるとご家族の意志は変化する時もあるということを念頭におき今後も対応していきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員は研修に参加できていない為、今後は全職員に行えるように研修を予定するようにしたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の避難訓練の実施。地域の協力にまではまだなっていないが、地域の防災訓練に参加し積極的に施設のアピールは行っている。避難時につける施設の名札を準備し、近隣の方の協力が得やすいようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理、接遇マナーについて独自の研修を全員同一内容で行っています。ご入居者様にたいする接遇こそ「介護士のプロ」の必須要件と伝え「慣れ親しみ」よりも「敬い思いやりあふれる」ケアを目指しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や着替え、食事量や入浴、したいことや手伝って頂く内容など意識的に自己決定の機会を増やすように工夫している。またご家族様も交えて実際の生活における決定事項を相談して随時、その時に一番良い方法を検討している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさは自由な環境の中にあります。その自由な環境づくりをしてこそご本人の希望を実現できると感じます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容はほぼ2カ月に1回程度、地域交流の為、近隣の理美容をお願いしている。また60年来の美容師さんにカットして頂いているご入居者様もいる。ご家族には季節ごとの衣類の整理などもお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の時は、利用者様の希望を聞き、特別メニュー（ちらし寿司 うな重 手打ちそば）にしたりしている。食事に関わる事はなるべく利用者様と一緒にを行うようにしている。食事は利用者様と一緒にすることを基本にしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	見目で食べない方も多いため、盛り付けや切り方を工夫している。水分も好みを把握し色々な種類をそろえている。時に夏場はゼリーや果物、寒天などを工夫し食味の良い物を少しでも気分よく摂取して頂けるよう工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回訪問歯科が入っているため、口腔ケアの方法などもアドバイスして頂き行っている。また口腔ケアは大切なものであるという認識を職員が持ち、その大切さをご入居者様に伝えていっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけなどをおこなっている。また出来るだけリハビリパンツなどの活用をお勧めし排せつ介助は極力トイレで、の共通認識を持ち介助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、水分、運動を心がけているが、それでも便秘の場合は、医師の指示で下剤の使用もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	できるだけご本人の希望にそうようにしている。入浴のお声掛けも「～さん お風呂です」ではなく「お風呂が沸きますがせっかくだから入りませんか？」と問いかけにしてご自身の意思を尊重するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に昼寝をしたり、夜間なかなか眠れない方には日中の活動量を増やしたりしている。また医師からも「昼間のベッドは部屋を暗くしないで対応する」ような指示を頂き遵守している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の薬を一覧表にしたり、追加や変更になった新しい薬については目的と副作用がわかるように掲示している。また薬変更時には診療記録に反映できるよう心掛け、職員全体で把握している。服薬の際は2名の職員で「名前、服薬内容と日付け」を復唱して実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般、歌、散歩はお好きな方が多く、日々の楽しみになっている。外出支援は積極的に実施しており、出かけ際の町の方との会話も楽しみの一つです。最近は調理をお願いし味付け等お任せすることで役割を実感して頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方の協力で夕方、盆踊りに出掛けたりしている。事業所の庭でお天気のいい日はベンチに座ってお茶を飲んだりして気分転換をしています。自分たちで作ったおやつを庭に用意したベンチで皆さんで頂くことで穏やかな雰囲気づくりに貢献している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所の商店街で、買い物支援を行っている。「買い物にいきたいわ」という時もできる限り同行して「まいばすけっと」でのお買い物では顔なじみになり「バナナ園さん」と呼んでくださるようになってきました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でご家族とお話したり、自由にしている。居室に個人電話をお持ちの方が4名おられ、自由にご家族との会話を楽しんでいる。電話に気がつくと職員が「～さん 電話が鳴っていますよ」と声をかけて楽しい雰囲気が生まれています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾を変えたり、臭いには特に注意し、こまめな換気や消臭剤を使用し施設独特の臭いがないように気をつけている。バナナ園武蔵小杉で同じ香りを購入して各フロアに置くことで統一した雰囲気を作り出し、心地よい空間にできるように注意しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを多く置き、ゆったりとくつろげるようにしている。認知症の状態や体調、季節や会話のしやすい雰囲気などを考慮してお席をできるだけ心地よい生活が出来る様に職員全体で検討しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具など持ち込んで頂き、できるだけ自宅に近い環境にしている。ご家族、お子様やお孫さまの写真、これまでお部屋に飾っていたもの、趣味の道具や好みのぬいぐるみなどを自由に持ち込んで頂き快適な生活空間作りをお勧めしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ、家庭的な環境を心がけ、場所や位置をなるべく覚えてもらうようにし、過剰な標識をつけないようにしている。なによりも「ご入居者様のスペース」であることを意識して環境づくりを進めている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

バナナ園武蔵小杉

作成日

2017年9月6日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	接遇の徹底	会社の方針や想いを共有し積極的支援を実施する。	接遇向上を重要な課題として面接や講習会の実施を行う	1年
2	18	利用者様中心の生活	利用者様が生き生きと暮らすグループホーム	意欲を引き出すような関わり。ニーズに合わせた支援。	1年
3	34	緊急時、事故発生時の対応	実践力を身につける	研修の開催	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。